上田辰之助名譽教授年譜

桶舍典男

故上田辰之助先生は國際的な學者であった。學識は古今東西に普き碩學であった。本年譜は先生の學問と思想の形成を跡づける一つの試みである。

一八九二年に始まり、中に二つの世界戰爭を含めた先生の六十四年の生涯は、日本の歷史そのものが多彩且つ多難な時代であり、しかも先生を育くみ、後にご自身が有力な推進力となられた一橋大學が、また、高商から單科大學、そして社會科學の綜合大學へと興隆しつつある時代であった。しかのみならず、ギリシャ・ローマに遡り、イギリス・アメリカ・イタリヤ・フランス・スペイン・中國に跨がる先生の深い文化の洞察は、勢い年譜を多彩たらしめざるを得ない。作成にあたって若年かつ不肖の弟子の困惑するところである。

主なき多瑪書屋(マス)に遺された書簡の集積を手懸りとしながら、そこに登場する三百名に近い方々のご協力を得て作成したものがこの年譜である。年譜といってももとより完全ではない。不確實なものは一切排除し、確證を得たものは詳細に掲載することにした。從って全體を通じて不統一を免れない。更には編者の不注意から重要な事項の脫落があるかも知れないし、怠慢と時間の制約から調ぶべくして掲載できないことも少なくない。

その意味では、この年譜は所期の目的達成の第一次的作業に過ぎない。ご教示賜った諸先生・諸先輩に心からおん禮申しあげると同時に、大方の叱正を願う次第である。

一八九二年（明治二五年）

二月二日　上田芳藏（上田囘漕店主）、なかの次男として、東京市日本橋區小網町に生まれた。

一九〇三年（明治三六年）（十一歳）
近隣の學生から英語を教えられたのが機緣となって、この年よりイギリスの某家のペン・フレンドとなり、瀕繁に文通した。

一九〇五年（明治三八年）（十三歳）
九月　東京府立第一中學校に入學した。

一九〇八年（明治四一年）（十六歳）
語學力拔群のため、學校より表彰された。
この年、マンチェスター・ガーディアン紙に寄稿した。（月日・論題不詳）

一九一〇年（明治四三年）（十八歳）
七月　東京府立第一中學校を卒業した。
九月　東京高等商業學校に入校、英語部に入部した。

一九一四年（大正三年）（二十二歳）
七月　東京高等商業學校を卒業した。
九月　東京高等商業學校專攻部貿易科に入學し、上田貞次郎先生を指導教官に仰いだ。

一九一五年（大正四年）（二十三歳）
夏、インド國民會議派の指導者ラジパット・ライ（Lajpat Rai）が來日、「氏と相知るようになり、それ以來かなり長い間、いろいろ交渉を有った。」その後亡くなられるまで、「インドについて東南アジア諸國の中で、もっとも多くを知り、もっとも深い親しみを感ずるようになったのは、全く……ラジパット・ライとの相識關係によるものである。」（『經濟人・職分人』

二九五頁　假名使い及び字句の一部編者訂正。）

一九一六年（大正五年）（二十四歳）

三月　東京高等商業學校專攻部貿易科を卒業、この時、卒業論文として、『英國に於る資本主義を論じ企業合同に及ぶ』を提出した。

四月二〇日　東京高等商業學校講師を囑託された。

一九一七年（大正六年）（二十五歳）

一一月二一日　東京高等商業學校教授に任ぜられ、高等官七等に敍せられた。

一一月二八日　商業英語又び商業學研究のため、滿二ケ年間アメリカへ留學を命ぜられた。

一二月二八日　從七位に敍せられた。

一九一八年（大正七年）（二十六歳）

三月二一日　ペンシルヴァニア大學（The University of Pennsylvania）に留學のため東京を出發した。ペンシルヴァニヤ大學においては Emory R. Johnson, Dean of tho Wharton School について海運論を研究し、同時に、この頃第一次世界戰爭に對して、ペンシルヴァニヤを據點として活發な平和運動を續けるクェイカーに共鳴した。

一九二〇年（大正九年）（二十七歳）

二月一〇日　留學滿期後滿一ケ年私費滯在を許可された。

四月一日　東京高等商業學校の大學昇格に伴い、東京商科大學附屬商業專門部教授に任ぜられた。大正九年四月一九日まで、正式にアメリカ滯在を命ぜられた。

この頃、シカゴにある朝鮮の假政府が、フィラデルフィヤの有力紙 Public Ledger に排日宣傳をしたため、同紙に日本の立場を明らかにして反撥した。

七月二三日　イギリス・フランスを留學國に追加された。
八月一八日　論文『海運業の經濟史的意義』をペンシルヴァニヤ大學に提出、Ph・Dの學位を授けられた。

一九二一年（大正一〇年）（二十九歳）
ロンドン大學に於いてクェーカーのメムバーとなった。

一九二二年（大正一一年）（三十歳）
五月六日　留學地より歸朝。
五月一六日　東京商科大學講師を囑託され「商業英語」を擔當した。
六月六日　高等官七等に陞敍された。
六月三〇日　正七位に敍せられた。日本基督友會會員に受入れられた。

一九二三年（大正一二年）（三十一歳）
一月二七日　普連土女學校後援會の設立にともない評議員に就任した。
二月二二日　メンガー文庫の分類整理を命ぜられた。
三月一〇日　東京商科大學助教授を兼任した。
四月一四日　日本基督友會第七年會にあたり、聖坂基督友會會堂において、「現代經濟生活に於ける基督友會の貢獻」と題して講演を行った。（『愛の友』第二〇號　大正一二年一〇月一日號告示）
九月一日　關東大震災により家屋全燒し、書籍を烏有に歸した。この時、アダム・スミス『國富論』初版及びバーナード・マンドヴィル『蜂の寓話』第六版を小脇に、祖母を背負って皇居前廣場に避難、その足で一ツ橋に向った。
一一月一日　日本基督友會奉仕團委員會評議員となった。（『愛の友』第二七號　大正一二年一一月一日發行）

一九二四年（大正一三年）（三十二歳）

二月一日　聖坂基督友會年會委員となる。(『愛の友』第三〇號　大正一二年二月一日發行)
四月一一日　日本基督友會第八年會にあたり、聖坂基督友會會堂において、「ヂョージ・フォックス」について講演を行った。
(『愛の友』第三二號　大正一三年三月一日發行)
六月七日　東京商科大學助教授として、東京商科大學附屬商學專門部教授を兼任した。
六月一九日　高等官五等に陞敍された。
七月一日　日本基督友會が芝公園四號地に設立した友愛住宅の友愛村委員となり、東京商科大學S・P・S同人の組織する勞働學校に村會堂を斡旋した。
ジョージ・フォックス三百年記念事業として、先生指導のもとに、日本基督友會において『フォックス傳』の執筆を始めた。
(『愛の友』第三五號　大正一三年七月一日發行參照。『フォックス傳』の完成は不明である。)
九月一一日　教員檢定委員會臨時委員となった。
一〇月一日　從六位に敍せられた。
この年 Honorary Secretary of the University of Pennsylvania Alumni Society of Japan となる。
東京商科大學において商業英語・西洋經濟事情・鐵道・研究指導を擔當した。同附屬商學專門部において英語を教えた。

一九二五年(大正一四年)(三十三歳)
四月一日　教員檢定委員會臨時委員を免ぜられた。

一九二六年(大正一五年)(三十四歳)
二月二日　田川大吉郎夫妻の媒妁により、新渡戸稲造宅にて加藤あやのと結婚、杉並區阿佐ヶ谷一丁目一番地に居を構えた。
一〇月二日　高等官四等に陞敍された。
一一月一日　正六位に敍せられた。

一九二七年(昭和二年)(三十五歳)

この年、東京商科大學において商業英語・經濟政策・研究指導を擔當した。

一九二八年（昭和三年）（三十六歳）
五月七日　教員檢定委員會臨時委員となった。
一二月一日　東京商科大學英文一覽（Bulletin of the Tokyo University of Commerce）編纂を囑託された。

一九二九年（昭和四年）（三十七歳）
二月一二日　教員檢定臨時委員を免ぜられた。
四月二二日　教員檢定委員會臨時委員となった。
五月一日　高等官三等に陞敍された。
五月一五日　從五位に敍せられた。
この年東京商科大學において、英米文化論・中世教會の經濟學說・ラテン語・經濟政策・研究指導を擔當した。

一九三〇年（昭和五年）（三十八歳）
三月六日　教員檢定委員會臨時委員を免ぜられた。
五月二〇日　教員檢定委員會臨時委員となった。
この年武藏野市吉祥寺五六九番地に轉居し、後に聖トーマスに因んで、多瑪書屋（中國語で多瑪書をトーマスという）と命名した。
東京商科大學における擔當科目は前年度に同じ。

一九三一年（昭和六年）（三十九歳）
一月二四日　教員檢定委員會臨時委員を免ぜられた。
五月五日　教員檢定委員會臨時委員となった。
五月二八日　アメリカ及びカナダに、德川家正に隨行して、出張を命ぜられた。

七月二八日　東京商科大學教授に任ぜられ、東京商科大學附屬商學專門部教授を兼任、高等官三等に敍せられた。
この年東京商科大學において英米文化論・中世教會の經濟學說・商業英語および研究指導を擔當した。

一九三二年（昭和七年）（四十歲）
五月一一日　教育檢定委員會臨時委員となった。
一一月一五日　正五位に敍せられた。

一九三三年（昭和八年）（四十一歲）
一月一九日　勳四等に敍せられ、瑞寶章を授けられた。
二月二二日　教員檢定委員會臨時委員を免ぜられた。
五月一二日　教育檢定委員會臨時委員となった。

一九三四年（昭和九年）（四十二歲）
二月一日　教員檢定委員會臨時委員を命ぜられた。
四月　文部省語學研究所理事となった。
この年、商業英語・歐洲中世經濟學史および研究指導を擔當した。

一九三五年（昭和十年）（四十三歲）
二月二七日　『社會職分を基調とするトマス・アクィナスの經濟思想に關する研究』を東京帝國大學經濟學部に提出し、經濟學博士の學位を授けられた。この論文は「聖トマスに於ける職分社會思想の研究」（『商學研究』第二號）と『聖トマス經濟學——中世經濟學史研究の一文獻』（刀江書院　昭和九年）とを合本したものであって、さきに福田德三先生が開拓した「トマス・ダキノの經濟學說」に系統と原典的基礎とを與えた注目すべき業績である。
トマス研究の盛んなヴァティカン法王廳は感謝狀を以て、フランス政府はオフィシエ・ダカデミー章を以て、この業績を表

彰したのも、由なしとしない。

五月二二日　教員檢定委員會臨時委員を命ぜられた。

一九三六年（昭和十一年）（四十四歲）

四月二一日　教員檢定委員會臨時委員を免ぜられた。

五月一二日　教員檢定委員會臨時委員を命ぜられた。

一九三七年（昭和十二年）（四十五歲）

四月一四日　勳三等に敍せられ、瑞寶章を授けられた。

四月二一日　教員檢定委員會臨時委員を免ぜられた。

五月二四日　教員檢定委員會臨時委員を命ぜられた。

この年、東京商科大學において、商業英語・經濟學史特殊問題・研究指導を擔當した。

一九三八年（昭和十三年）（四十六歲）

一月一〇日　高等官一等に陞敍された。

一月一五日　從四位に敍せられた。

三月一三日　教員檢定委員會臨時委員を免ぜられた。

四月　東京商科大學調査部委員となった。

五月五日　教員檢定委員會臨時委員を命ぜられた。

一九三九年（昭和十四年）（四十七歲）

四月二〇日　教員檢定委員會臨時委員を免ぜられた。

五月一六日　教員檢定委員會臨時委員を命ぜられた。

九月　文部省語學教育研究所において「技術・知識・教養」と題して講演を行った。
一〇月四日　滿洲國及び中華民國へ出張を命ぜられた。
一二月　奉天如水會において王兆銘政權に反對演說を行った。

一九四〇年（昭和十五年）（四十八歳）
四月　東京商科大學各務財團理事に就任した。
日伊學會評議員となった。
東京商科大學において經濟思想史・商業英語・研究指導を擔當した。同大學附屬商學專門部において、九月より「經濟發展の世界觀」と題して九回講議を行った。

一九四一年（昭和十六年）（四十九歳）
二月　報德經倫協會において、「報德における動的論理」について研究報告を行った。
三月　トマス研究及び日伊文化貢獻の功により、イタリヤ政府より、コムメンダトーリ・コローナ・デ・イタリヤ勳章を授けられた。
五月　上田貞次郎博士記念事業財團理事に就任した。
十月　報德經倫協會において、「報德的社會機構について」研究發表、報德的社會が職能國家に發展し得なかった理由を考察した。

一九四二年（昭和十七年）（五十歳）
報德經倫協會常務理事に就任した。
七月一九日　「經濟倫理のスコラ的展開」と題して、神田一橋講堂において東京商科大學カトリック研究會主催相馬永夫追悼記念講演を行った。
一〇月二三日　北京輔仁大學（カトリック大學）經濟學・社會學客席教授として招聘された。

一二月　日本學術振興會第三常置委員會委員（經濟學）を委囑された。

一九四三年（昭和十八年）（五十一歳）
二月一五日　正四位に敍せられた。
十一月二日　教員檢定委員會臨時委員を命ぜられた。

一九四四年（昭和十九年）（五十二歳）
四月一二日　勳二等に敍せられ、瑞寶章を授けられた。

一九四五年（昭和二十年）（五十三歳）
春　日華學藝懇話會（後の中國研究所）を創立、平野義太郎・風早八十二と共に世話人となり、長谷川如是閑・三浦新七・根岸佶・末弘嚴太郎・長與善郎らと日中兩國民の相互理解を通じて、兩國の關係の正常化につとめた。
九月二七日　「復興日本と報德原理」と題して丸の內會館において、報德經倫協會主催の講演を行った（便箋用紙五〇枚）
一一月二二日　「報德に於ける反省と前進」と題して、丸の內靜養軒において報德經倫協會主催講演を行った。（便箋用紙四一枚）
一二月　財團法人大倉山文化科學研究所理事及び所長に就任。毎周一回の明治文化を中心とする研究會を指導された。後年西鶴研究に着手される一つの機緣となったと想像される。

一九四六年（昭和二十一年）（五十四歳）
一月二一日　日華學藝懇話會定例研究會において、「中國におけるアメリカ的なものとソ連的なもの」について報告された。
三月　「思想の科學研究會」の發足にあたり、會の名づけ親となった。
四月二八日　日華學藝懇話會において蔣介石著『中國經濟學說』の紹介・批判を行なった。
一一月二六日　教育職員適格審査委員會において、適格と判定された。

この年、日本文化人連盟理事、民主主義科學者協會創立發起人、あるびよんくらぶ創立發起人、理事、日英協會 Japan—British Association 評議員、英國文化振興會（British Council）理事、普連土女學園評議員、理事となる。

一二月一日　全國大學教授連合發會式第一回總會（東大）にて理事に就任。主として學問思想の自由、渉外關係を擔當した。

一九四七年（昭和二十二年）（五十五歳）

一月五日　あやの夫人が亡くなられた。

四月　國際教育協會理事に就任された。

八月二一日　三浦新七博士東京商科大學葬にあたり、葬儀委員長をつとめられた。

一九四八年（昭和二十三年）（五十六歳）

秋　米國人文科學顧問團の來日に際し日本側委員會（委員長南原繁）の經濟關係主任委員となった。

一二月二七日　公職適否審査會において非該當と判定された。

一九四九年（昭和二十四年）（五十七歳）

五月三一日　東京商科大學が一橋大學と改稱されるに伴い、一橋大學教授兼專門部教授に補せられた。一橋大學經濟學部長に補せられた。

六月一四日　普連土學園において「女性と創意」と題して講演を行った。

八月　Committee of the America Friends Service Centre, International Student Seminar の Dean となる。以後毎年 Chairman 又は Dean を務めた。

Chairman of the Advisory Committee of the America Friends Service Centre に就任。

一〇月五日　日本學士員會員に推薦された。

この年神奈川縣圖書館協會の設立に伴い會長に就任した。

一九五〇年（昭和二十五年）（五十八歳）
四月一九日　一橋大學東京商科大學學長同附屬商學專門部長事務代理兼任を命ぜられた。
六月一四日　普連土學園において「女性と自己表現」と題して講演を行った。
七月一五日　一橋大學東京商科大學學長同附屬商學專門部長事務代理の兼職を解除された。
この年神奈川縣圖書館協會の會長を辭し、名譽會長に推された。

一九五一年（昭和二十六年）（五十九歳）
四月一日　一橋大學經濟學部長の兼職を解かれた。
六月一一日　一橋大學アイフェル運營委員會委員を命ぜられた。
六月一四日　普連土學園に於て「美を求める心」と題して講演を行った。

一九五二年（昭和二十七年）（六十歳）
五月一一日　佐野善作博士一橋大學葬において葬儀委員長をつとめられた。
六月一三日　横濱市立港高等學校において、「青雲の志について」と題して講演を行った。
六月一四日　普連土學園において、「國際人としての女性」と題して講演を行った。

一九五三年（昭和二十八年）（六十一歳）
二月　如水會武藏野支部長に就任。
四月一日　一橋大學社會學部教授に配置轉換された。大學院社會學研究科及び經濟學研究科を擔當された。
五月二日　一橋大學に於ける經濟學史學會第七回大會において、「蘇格人アダム・スミス――スミス思想のよりよき理解のために」と題して講演された。
六月一四日　普連土學園において「日本女性と西洋文化」と題して講演を行った。
一〇月二四日　全國大學教授連合理事を辭任した。

一二月二五日　日本基督友會戸山ハイツ禮拜會において、雜誌『友信』を發刊された。

一九五四年（昭和二十九年）（六十二歳）

五月八日　横濱國立大學經濟學部における經濟學史學會第九回大會席上、同學會監事に推薦された。

一一月七日　關西大學における經濟學史學會第十回大會において、「西鶴の『日本永代藏』とディフォウの『イギリス商人大觀』――東西經濟思想の二つの典型」と題して、研究を發表された。

一一月八日　關西學院大學において「市民社會について」講演を行った。

一一月九日　大阪誓願寺の西鶴の墓に詣でた。

一九五五年（昭和三十年）（六十三歳）

三月三一日　停年により一橋大學を辭職された。一橋大學大學院委員會委員を免ぜられた。

四月　如水會理事に就任。

五月九日　一橋大學名譽教授の稱號を授けられた。

五月　オーストラリアの新聞 The Argus の記者より來電、日本における原爆の被害調査を依頼された。茅誠司學術會議議長と相談更に都築正男日赤中央病院長を交え返電。これは七月記者 Mr. Russo の來日により同紙に大きく報道された。記者來日の際三笠宮に紹介し同宮の『帝王の墓』の紹介の勞をとられた。

九月一日　國際基督教大學客員教授に就任。

一一月三日　天草の史蹟を尋ね、天草二郎の墓の荒廢を嘆き、朝日新聞長崎版に投書、反響が大きく關係者を震愕させた。

一二月二二日　東京女子大學附屬比較文化研究所講演會において、『イギリス文化における經濟と文學――産業革命と英文學第一期ディフォウよりラムまで』の講演を行った。

一九五六年（昭和三十一年）（六十四歳）

一月　梨芳會（歌舞伎裏方の會）を組織し、會長となった。

一月二一日　東京女子大學附屬比較文化研究所において、「産業革命期の經濟と文學――オーガスタン時代』（その一）と題して講演を行った。
一月二八日　東京大學において、前掲論題（その二）について講演を行った。
五月三日　法政大學における經濟學史學會第十三回大會において、同學會監事を留任した。
五月一二日　早稲田大學文化系大學院講堂において、「經濟社會とイギリス文學」と題して、同大學昭和三十一年度春季公開講演を行った。
六月　財團法人如水會圖書委員長に就任。
八月、　神戸女學院における International Student Seminar で講演を行った。
Chaireman of Advisory Committee of Mr. Wilson's Peace Work となった。
九月一日　明治學院大學兼任教授となる。
一〇月一三日　午後五時四十五分、梨芳會月例會出席のため、家を出られて間もなく、心臟麻痺のため逝去された。
一〇月一六日　新宿區戸山町戸山ハイツ・ネイバフッド・センターにおいて、井藤半彌を葬儀委員長として葬儀が行われた。
一〇月三一日　從三位勳一等に敍せられ、瑞寶章を授けられた。特旨を以て、位一級を追陞せられ、正三位に敍せられた。

一九五七年（昭和三十二年）
一月二〇日　染井墓地慈眼寺に埋骨せられた。

「二つの勞働憲章と其の思想的背景」、「日本文化の行方」など場所、月日不明の講演原稿、「蘇格人アダム・スミス」、アミントーレ・ファンファーニ『黎明期の經濟思想史――イタリヤ資本主義精神の淵源――』邦譯及び解說などの未發表原稿、更にはマンドヴィル、ディフォウ、西鶴に關する多數の整理カードや英文原稿を見ると、以上の年譜が不充分であることはもとより、廣汎で且つ深い上田先生の思想的遍歷を、編者の淺薄な體系で却って抑制したのではないかと愧れざるを得ない。深く先生のみ靈にお詫びすると同時に、期して今後の課題とすることを許して頂きたいと思う。

年譜の中に人名は一切敬稱を略させて頂いた。ご諒恕を賜りたいと思う。

（追加）

一九一二年（明治四五年）

四月二七日　東京高等商業學校英語部第一七回大會の英語劇‘Julias Caesar’において Brutus の役を演じた。

一九一三年（大正二年）

五月二日　東京高等商業學校英語部第一八回大會のために英語劇のシナリオ‘Young Dramatists from the H. C. S.’を書いた。

五月三日　右大會において Thomas Otway;‘Venice Preserved, or a Plot Discovered’の Jaffier の役を演じた。

一九一四年（大正三年）

四月六日　東京高等商業學校英語部第一九回大會の英語劇のシナリオとして‘The Creditor Outwitted’を Molière から英譯、同日‘Les Miserables’の Jean Valjean の Inner Voice を演じた。

四月七日　右大會において、シナリオ‘The Professor's Omiyage’を書き、又、Hall Caine;‘The Eternal City’の Rossi の役を演じた。

一〇月一四日　東京高等商業學校英語部の月會において‘The Origin of Alphabet’と題してスピーチを行った。

一九一五年（大正四年）

四月一六日・一七日　東京高等商業學校英語部第二〇回大會の英語劇のシナリオとして‘The Hakase Market’を執筆、又、Molière を改作して‘A Man of Bank’を書いた。

一九三七年（昭和一二年）

一九四五年まで、文官普通懲戒委員をつとめた。

一九三九年（昭和一四年）
三月一一日　報德經濟學研究會において、「全體主義と報德經濟」と題して報告した。

一九四〇年（昭和一五年）
二月一〇日　報德經濟學研究會において、「報德主義より觀たる東亞新秩序」と題して報告した。

一九四一年（昭和一六年）
二月八日　報德經濟研究會において、「報德主義に於ける動的論理」と題して報告した。
一〇月一一日　報德經濟學研究會において「報德的社會機構に就いて」と題して報告した。

一九四三年（昭和十八年）
一〇月二七日　青山學院で開催された日本基督教諸學振興會第二回大會において、「三つの經濟倫理」と題して公開講演を行った。

一九四四年（昭和一九年）
十月より十二月まで中國を旅行した。

一九五〇年（昭和二五年）
一月一〇日　財團法人一橋學園ファンド理事に就任した。
この年、一橋大學評議員をつとめた。

（附表）

東京高等商業學校・東京商科大學・一橋大學における講義擔當一覽表

一九一六年　英語
一九一七年―一九二一年　留學のため休講
一九二二年　鐵道・商業英語（學部）、英語（附屬商學專門部＝以下專門部と略す）
一九二三年　鐵道・商業英語・研究指導（學部）、英語（專門部）
一九二四年―一九二七年　商業英語・西洋經濟事情・鐵道・研究指導（學部）、英語（專門部）
一九二八年　英米文化論・フランス語・經濟政策・研究指導（學部）、英語（專門部）
一九二九年―一九三〇年　英米文化論・中世教會の經濟學說・ラテン語・經濟政策・研究指導（學部）、英語（專門部）
一九三一年―一九三二年　英米文化論・中世教會の經濟學史・商業英語・研究指導
一九三三年　歐洲中世經濟學說・商業英語・英語・研究指導
一九三四年　商業英語・歐洲中世經濟學史・研究指導
一九三五年―一九三七年　商業英語・經濟學史特殊問題・研究指導
一九三八年―一九三九年　商業英語・經濟思想史・組合國家論・研究指導
一九四〇年　商業英語・經濟思想史・研究指導
一九四一年―一九四二年　商業英語・最近政治經濟史・研究指導
一九四三年―一九四五年　經濟言語論・經濟思想史・研究指導
一九四六年―一九四八年　不詳
一九四九年　經濟學史（一橋大學經濟學部＝以下一橋大學を省略）・社會思想（小平分校）、經濟學史・研究指導（東京商科大學）
一九五〇年―一九五二年　經濟學史（經濟學部）、經濟學史・研究指導（東京商科大學）
一九五三年　社會思想史（社會學部）、經濟學特殊問題・イギリス社會（大學院）
一九五四年　社會思想史（社會學部＝半年）、社會思想（小平分校＝半年）、社會思想（大學院）